

令和2年度国立大学法人東京海洋大学第1回経営協議会議事要録

日 時 令和2年6月25日(木) 15時00分～17時00分

場 所 本部管理棟 第一会議室(品川地区)及び Webex によるビデオ会議

出席者 竹内学長、五十嵐委員、井手委員、井上委員、荻上委員、武藤委員、森委員、山本委員、東海理事、黒川理事、工藤理事、渡辺理事、堀内副学長(兼 事務局長)

オブザーバー 青山監事、久保田監事、神田副学長、庄司副学長、川辺海洋生命科学部長、井関海洋工学部長、田中海洋資源環境学部長、舞田海洋科学技術研究科長

事務担当者 溝部財務部長、永井企画評価課長ほか事務関係者

議 事

【審議事項】

1 学長候補適任者の推薦に係る委員の選出について

学長から資料1に基づき、学長候補適任者の推薦に係る委員の選出について説明があり、審議の結果、学長候補適任者の推薦に係る委員の主査として武藤委員を選出した。

2 中期計画の達成状況報告書について

学長から資料2に基づき、中期計画の達成状況報告書について説明があり、審議の結果、原案のとおり承認した。また、軽微な修正等が必要となった場合の対応は、学長に一任することとした。

3 平成31事業年度に係る業務の実績及び第3期中期目標期間(平成28～31事業年度)に係る業務の実績に関する報告書について

学長から資料3に基づき、平成31事業年度に係る業務の実績及び第3期中期目標期間に係る業務の実績に関する報告書について説明があり、審議の結果、原案のとおり承認した。また、軽微な修正等が必要となった場合の対応は、学長に一任することとした。

委員からの主な意見等は以下のとおり。

- ・評価対象項目ではないが、アクティブ・ラーニング・スペースの活用について利用人数が年々増えており感心している。
- ・インターンシップの件数は過去数年と比べて増えているか。

上記の意見に対し、学長から以下のとおり説明があった。

- ・1日限りのインターンシップを計上しないこととしたため、件数としては減っている可能性があるが、全体として少ない件数ではないと考えている。

4 令和元年度決算の概要について

- (1) 令和元年度決算の概要等について
- (2) 令和元年度資金管理実績について
- (3) 令和元事業年度財務諸表等について

堀内事務局長から資料4-1～4-5に基づき、令和元年度決算の概要について説明があり、審議の結果、原案のとおり承認した。また、軽微な修正等が必要となった場合の対応は、学長に一任することとした。

委員からの主な意見等は以下のとおり。

- ・受託研究収益及び共同研究費収益について、各学部・各学科の内訳などは分かるか。
- ・大学と産業界が連携して研究を進めることは大変望ましいことだと考えている。

上記の意見に対し、学長から以下のとおり説明があった。

- ・受託研究収益及び共同研究費収益における各学科等の内訳については、今後報告する。

5 令和3年度概算要求事項について

堀内事務局長から資料5に基づき、令和3年度概算要求事項について説明があり、審議の結果、原案のとおり承認した。また、要求順位等については、学長に一任することとした。

6 日本学生支援機構への土地の貸付について

堀内事務局長から資料6に基づき、日本学生支援機構への土地の貸付について説明があり、審議の結果、原案のとおり承認した。また、今後の対応については、学長に一任することとした。

委員からの主な意見等は以下のとおり。

- ・グラウンドの一部に建設する計画であるが、グラウンドとしての機能をきちんと残すということに重点を置いて進めてほしい。
- ・本学の雰囲気と調和がとれるような建物を計画して欲しい。
- ・日本学生支援機構との協力体制は望ましいと思う。一方で国への予算要求は厳しい状況にあるため、期待される収益が十分に得られないことも予想される。この土地は大学の今後にとって非常に大きな価値のあるものである。全体的な開発計画についてはコンサルタント等の意見も聞き、しっかりと計画を立てていく必要があるのではないかと。
- ・日本学生支援機構は本学にとっても素晴らしいパートナーになりうると考える。今後はイノベーション・コモンズという形で本学も計画に踏み込んだ形で相談をして計画を進められるようにすることが望ましい。
- ・本学の学生と日本学生支援機構の留学生が交流できるような、一体感のあるものをデザインして欲しい。

上記の意見に対し、学長及びから以下のとおり説明があった。

- ・本学の土地の貸付けを行うにあたり、キャンパスグランドデザインプロジェクトを立ち上げ、一つのキャンパスとして一体化するような視点で進めている。
- ・日本学生支援機構から文部科学省への予算要求については現在検討中と聞いている。情報共有をしっかりとし、本学も連携して検討をしていきたい。
- ・日本学生支援機構への確認事項として本学の考え方を整理し、提案する準備をしている。本学と日本学生支援機構が良きパートナーとして共通理解を持ちながら進めていくことを提案していきたいと考えている。

【報告事項】

○総務・財務

- ・東京海洋大学統合報告書について
堀内事務局長から資料7に基づき、東京海洋大学統合報告書について報告があった。

○教育・学生支援

1 令和元年度卒業・修了者の進路状況について

庄司副学長から資料8-1～8-3に基づき、令和元年度卒業・修了者の進路状況について報告があった。

委員からの主な意見等は以下のとおり。

- ・大学院進学率が高いように感じるが、大学院修了者について社会的な需要などは高まっているのか。または本学の学生がとりわけ向上心が高いということか。

上記の意見に対し、学長及び庄司副学長から以下のとおり説明があった。

- ・社会的情勢としては、工学系を中心に修士の学位を得て就職することが一般的になりつつある。本学の進学率については学科によってばらつきがあるが、博士前期課程を修了し、就職する学生は多い。一方で、社会情勢などを考慮した上で就職の時期について検討し、進学するかどうか決める学生もみられる。

2 令和2年度入学者選抜状況について

東海理事から資料9に基づき、令和2年度入学者選抜状況について報告があった。

○研究・国際

1 東京海洋大学水圏生殖工学研究所の設置等について

神田副学長から資料10に基づき、東京海洋大学水圏生殖工学研究所の設置等について報告があった。

2 令和2年度科学研究費助成事業採択状況について

神田副学長から資料11に基づき、令和2年度科学研究費助成事業採択状況について報告があった。

○その他

- ・ 新型コロナウイルス感染症への本学の対応について
堀内事務局長から、新型コロナウイルス感染症への本学の対応について報告があった。

委員からの主な意見等は以下のとおり。

- ・ 実習船はどのような状況か。
- ・ TOEICの試験などは実施できているのか。

上記の意見に対し、学長及び東海理事から以下のとおり説明があった。

- ・ 実習船の運航については、長期航海の期間を短くする方針で関係省庁とも相談して調整を進めている。
- ・ TOEIC L&Rについては3月から公開テストが実施されておらず、学内で実施するIPテストも中止していたが、IPテストについては、7月以降に再開する予定である。

以上

配付資料

○令和元年度第5回経営協議会議事要録

- 資料1 学長候補適任者の推薦について（依頼）他
- 資料2 中期目標の達成状況報告書（案）
- 資料3 平成31事業年度に係る業務の実績及び第3期中期目標期間（平成28～31事業年度）に係る業務の実績に関する報告書
- 資料4-1 令和元年度決算の概要
- 資料4-2 資金管理規則第11条に基づく 令和元年度資金繰実績報告
- 資料4-3 令和元事業年度財務諸表
- 資料4-4 令和元事業年度決算報告書
- 資料4-5 令和元事業年度事業報告書
- 資料5 令和3年度概算要求事項(案) について
- 資料6 独立行政法人日本学生支援機構への土地の貸付の検討について
- 資料7 東京海洋大学統合報告書
- 資料8-1 令和元年度卒業・修了者の進路状況 他
- 資料8-2 就職先の上位ランキング（令和元年度）
- 資料8-3 業種別就職状況一覧
- 資料9 令和2年度東京海洋大学入学者選抜状況（令和2年4月1日現在）
- 資料10 水圏生殖工学研究所の組織（案） 他
- 資料11 令和2年度科学研究費助成事業 概況報告（令和2年5月31日現在）
- 参考資料 令和2年度経営協議会開催日程